

2022 年度
**海外総合実習
報告書**



北海学園大学経営学部

Contents

Part One. 海外総合実習

1. 経営学部海外総合実習の概要	3
2. 事前学習スケジュール(2022年度)	4
3. 実地研修スケジュール(2022年度)	5
4. 日本企業訪問・レポート(1) JTB北海道事業部	6
5. ハワイ大学の紹介	8
6. NICEプログラム	10
7. ホームステイ生活	12
8. 海外企業訪問レポート	14
9. JTBハワイへのプレゼンテーション準備	16
10. 観光について	18
11. ハワイの文化と生活	20
12. 総括	22

Part Two. 北海学園大学経営学部の英語

1. 北海経営English (Hokkai Business English : HBE)	24
2. 英語演習(内藤ゼミ)	26
3. 英語演習(浦野ゼミ)	28
4. 英語教員紹介	30



修了式

Part One. 海外総合実習

経営学部海外総合実習の概要

北海学園大学経営学部では、2003年の学部開設以来、時代の要請に応える形で「ビジネスで使える英語」力を身につけるためのカリキュラムを展開してきました。学部1・2年次科目の総合実践英語と3年次科目のビジネス英語では、実践的な英語力を磨くための授業を開講していますが、そういった科目で学修した内容と相乗効果を高めるためのプログラムのひとつに「海外総合実習」があります。

新型コロナウイルスの影響で2年間の中止を余儀なくされた海外総合実習ですが、2022年度に米国ホノルル市にあるハワイ大学に研修先を変更して無事再開しました。

海外総合実習では、経営学部独自の総合実践英語で培った英語の基礎力を踏まえて、英語が使用されている海外の現場に実際に足を運び、「英語が通じた!」という体験してもらいます。血の通ったコミュニケーションを成立させるため、そして海外での対話を成功させるためには、日本人として話すコンテンツを持ち合わせて

いることが鍵となります。この実習では、海外企業のマネージャークラスのビジネス・パーソンと対話するという明確な目標を掲げ、その目標に向かって十分な準備をしてから海外へと飛び立ちます。

海外総合実習は、日本（北海道）と米国（ハワイ州）の企業および業界研究を題材として、英語力の育成だけでなく、経営学の専門知識の涵養と実務的なコミュニケーション能力の習得を目指したプログラムです。英語教員と経営学の専門教員が協働することで、ハワイでの語学研修前に、業界・企業分析のスキルを学び、日本の企業を訪問し、その内容をレポート、プレゼンテーション資料としてまとめあげます。ハワイ大学マノア校（ホノルル市）での語学研修中には、研修先の語学学校およびハワイ大学の学生との交流を通じて英語でのコミュニケーションを体験し、企業を訪問することで海外の企業文化に触れ、また、現地のビジネス・パーソンの前で研修前の成果を実際にプレゼンし、意見交換をすることで、英語を実際に使う、また通じるという実体験を積むことを目標とします。



ハワイ大学での集合写真

事前学習スケジュール(2022年度)

4月	オリエンテーション 英語課題開始 ハワイの地理・歴史・文化・産業 企業分析および業界分析の方法
5月	日本の産業に関する調査 北海道の企業に関する調査 産業と企業に関するレポートの作成
6月	JTB ハワイ訪問 プレゼンテーション準備
7月	プレゼンテーション準備 異文化コミュニケーション・ワークショップ 出発前の留意点の確認
8月	プレゼンテーション準備 旅行会社によるオリエンテーション



ハワイ大学 NICE プログラム初日のオリエンテーションのため集合



プレゼンの打ち上げ

実地研修スケジュール(2022年度)

第1週	8月28日(日)	新千歳空港出発。羽田空港経由で日本を出国し、米国到着。 ホストファミリーと対面し、滞在先へ移動。
	8月29日(月)	プレースメントテスト、オリエンテーション、キャンパスツアー
	8月30日(火)	英語授業開始(12:30-16:20)
	8月31日(水)	英語授業、インターチェンジ(ハワイ大学生との交流)
	9月01日(木)	英語授業
	9月02日(金)	英語授業、インターチェンジ
	9月03日(土)	休日
第2週	9月04日(日)	休日
	9月05日(月)	クラスごとのキャンパス外活動(博物館等訪問)
	9月06日(火)	午前：企業訪問・プレゼンテーション(JTB Hawaii) 午後：英語授業
	9月07日(水)	英語授業、インターチェンジ
	9月08日(木)	英語授業
	9月09日(金)	英語授業、フラのワークショップ
	9月10日(土)	休日
第3週	9月11日(日)	休日
	9月12日(月)	クラスごとのキャンパス外活動(博物館等訪問) 夜：プレゼンテーション打ち上げ
	9月13日(火)	英語授業
	9月14日(水)	英語授業、インターチェンジ
	9月15日(木)	英語授業
	9月16日(金)	修了式(ハイアット・リージェンシー・ホテル)
	9月17日(土)	ホストファミリーとお別れ。 ホノルル空港より米国出国。
	9月18日(日)	日本帰国。羽田空港経由で新千歳空港到着。

JTB 北海道事業部

経営学科2年 田内杏樹

はじめに

現在、JTBは日本の旅行企業の中で一位の売上・人気を築き上げており、他社と比べて多くの強みを有しています。私たちは事前に業界・企業研究で知識を集積し、JTB北海道事業部のオフィスに訪問しました。

日本での取り組み

日本のJTBでは、旅行に来ていただくだけでなく、そこから別の観光地に足を運んでもらう「発着連携」の取り組みを、海外に拠点を置くJTBより先取りして進めています。また、OMO (Online Merges with Offline)；オンラインとオフラインの融合に重点を置いています。デジタル化が進む中でオンライン販売を利用しながらも、今までと同様に対面でのお客様サポートを大切にしたり、紙媒体の旅行券を残していたりと、お客様に合わせてオンラインとオフラインを使い分けています。さらに、「10年後、20年後の子や孫の世代でも、今と同じように楽しい旅行が出来るようにすること」を目指し、環境省と連携してSDGsに沿ったサステナビリティへの取り組みを行っています。

北海道での取り組み

北海道では、春夏秋冬、食、アイヌ文化、土地面積の広さの4点をアピールポイントとしています。これらの体験を融合させて学びに繋げる「アドベンチャートラベル」の取り組みが行われています。また、「地域に入り込む」ことを独自の観光戦略としています。札幌で毎年行われるYOSAKOIソーラン祭りのチケット販売や宿泊プランの提供はその具体的な取り組みです。栈敷席の販売や、外国人観光客も楽しめる多様化を意識したツアーは大きな反響を得ました。

終わりに

JTB北海道事業部の他社よりも優れている点は、顧客の声にしっかりと耳を傾け行動することを意識している社員の方が多く点だと社員の方がおっしゃっていました。私たちとの議論の中でも、業界・企業についての情報を丁寧に詳細に教えていただきました。私たちはこの有意義な企業訪問を、JTBハワイに向けたプレゼンテーションに繋げることができました。



JTB Hokkaido Division

Anju Tauchi

Introduction

JTB is currently the number one travel company in Japan in terms of sales and popularity. JTB also has many advantages as compared to other companies. We visited the JTB Hokkaido Division office after studying the industry and the company.

Initiatives in Japan

JTB has been promoting “arrival-destination linkage,” which refers to the linkage between the market (origin) and the receiving (destination) side of the JTB Group's network. By promoting the distribution of these attractions to the originating regions, they aim to expand the number of people interacting with each other based on tourism.

JTB Japan focuses on OMO (Online Merges with Offline). While using online sales in an increasingly digitalized world, they still value face-to-face customer support and retain the paper-based travel coupons they had in the past.

Furthermore, JTB has been working with the Ministry of Environment in line with SDGs activities. They aim to make the travel environment sustainable for the next generations.

Initiatives in Hokkaido

Hokkaido's four main appealing points are; the four seasons, food, Ainu culture, and the large land area. The “Adventure Travel” initiative is to connect these experiences to learning. In addition, “getting into the community” is a unique tourism strategy. Selling tick-

ets and offering accommodation plans for the annual YOSAKOI Soran Dance Festival in Sapporo is a concrete example of this approach. Selling special seats immediately in front of the show and tours designed to diversify for foreign visitors have received a great response.

Conclusion

The employees of JTB Hokkaido Division told us that one of the advantages of their company over other companies is that many employees are aware of the need of the customers and are ready to listen carefully to customers' voices and act accordingly. They gave us detailed information about the industry and the company during our discussions. We connected this meaningful company visit to our presentation to JTB in Hawai'i.



ハワイ大学の紹介

経営学科2年 堀川真紅

ハワイ大学マノア校

今回私たちが通ったハワイ大学マノア校は、ハワイ州オアフ島の南部にある大学です。ハワイで最大かつ最も知名度の高い大学です。この大学には約18000人の学生が在籍しており、様々な国から留学生を受け入れています。また、ハワイ大学では2種類の語学研修プログラムが設けられており、私たちはその中のNICEプログラムに参加しました。大学内はとても広く、大学内の建物をすべて見て回るだけで1日が終わるのではないかと思うほどの広さでした。大学内はただ広いだけでなく、体育館、図書館、キャンパスセンターや大学のショップなどたくさんの施設がありました。大学のショップにはハワイ大学のグッズ等がたくさん売られていました。ハワイ大学には「H day」というものがあり、その日にはHがつく商品が割引になります。先生方や現地の学生は親切で、気候も暖かくとても過ごしやすい環境でした。

大学内の雰囲気

ハワイ大学の外でも、現地の方はとてもやさしかったです。NICEプログラムにはハワイ大学の学生に質問をする課題があるのですが、ハワイ大学の学生は質問をされても嫌な顔ひとつせず優しく質問に答えてくれました。優しさを感じたのは質問されたときだけではなく、大学内にあるスターバックスを利用する時やお昼ご飯を買う時などの店員さんの対応です。慣れない注文の仕方にとまどっていると注文の仕方を丁寧に教えてくれました。また、課題で話しかけた学生が後日また話しかけてくれるということもありました。大学内はとても自由で、犬の散歩をしている学生を見かけることもあり、登校手段が車、バイク、キックボード、スケートボードなど色々なものを使って登校していました。日本ではあまり見かけない光景なのでとても新鮮でした。



Introduction to the University of Hawai'i

Shinku Horikawa

The University of Hawai'i at Manoa

The University of Hawai'i at Manoa, which we attended this time, is located in the southern part of Oahu, Hawai'i. It is the largest and most well-known University in Hawai'i. The University has approximately 18,000 students and accepts international students from many different countries. The University of Hawai'i offers two types of language training programs, and we participated in the NICE program. The University is so large that I thought I could spend a whole day just looking around all the buildings on campus. The University is not only large but also has a gymnasium, a library, a campus center, a university store, and many other facilities. The university store had many goods from the University of Hawai'i. The University of Hawai'i has an "H Day" ; products with the letter "H" are discounted on that day. The teachers and local students were friendly, and the weather was warm and comfortable.



The atmosphere inside the University

Hawai'iThe local people were very kind outside of the University of Hawai'i. I felt their kindness when I asked them questions, used the Starbucks on campus, and bought my lunch. They politely showed me how to order when I was confused about how to order, which I was not used to. Also, students I spoke to on assignments would talk to me again later. The University has a casual atmosphere, and I sometimes saw students walking their dogs and using various ways to get to the University, such as cars, bikes, kickboards, and skateboards. It was refreshing to see such a scene, which is not so common in Japan.



NICE プログラム

経営情報学科 2年 大屋沙緒

NICE について

私たちはハワイ大学で New Intensive Courses in English “NICE” という 3 週間の英語を学習するプログラムに参加しました。ここでは特に会話を中心としてコミュニケーション能力を伸ばし、異文化理解を深めることを目的とした英語レッスンを受けてきました。到着した次の日から早速学校に登校しました。初日はオリエンテーションと英語のクラス分けを行うためスピーキングテストが行われました。NICE では 5 段階にクラスのレベル分けをされます。リラックスし、会話を楽しむことを心がけると緊張せずに自分の英語力を出し切ることができました。次に、キャンパスツアーといい、ハワイ大学の生徒にハワイ大学の施設やキャンパスを紹介してもらったのですが、広すぎてなかなか覚えることができませんでした。大学にはもちろんいろんな国から来た学生がいるのですが、NICE プログラムには 100 人の生徒がいるにもかかわらず日本人の生徒のみでした。とても驚きました。

授業について

次の日から早速授業が始まりました。私たちのシーズンは昼の 12 時から夕方まで 4 時間のクラスでした。クラスでは休み時間も英語を話すことが絶対なので、日本人しかいない状況でも英語力の向上に悩む必要はないと思います。英語を話す機会は溢れているのでそのチャンスどう活かすか本当に自分次第です。普段の授業では主にオーラルコミュニケーションに焦点を置いて授業が展開されていきます。座学が基本ですが、ハワイ大学の学生とペアになり会話を楽しんだり、フラの講習、毎週月曜日には水族館や博物館へ行きキャンパス外での活動もありました。

プログラムの最後にはホテルで卒業パーティーが行われました。3 週間という短い間で英語力を伸ばせるのだろうかと不安でしたが、話す機会が増えることで英語力の向上につながり、充実した NICE プログラムを過ごすことができました。



NICE Program

Sao Oya

NICE Program

We participated in the New Intensive Courses in English (NICE) program at the University of Hawai'i. It is a three-week English study program. Here, we took English lessons to develop our communication skills, especially in conversation, and deepen our understanding of different cultures. We started school the day after we arrived. We had an orientation and a speaking test on the first day to determine our English class level. I tried to relax and enjoy conversation, and I could speak English without nervousness. Next, we had a campus tour, where we were introduced to the facilities and campus of the University of Hawai'i by a student of the University of Hawai'i. It was so big that I could not remember where everything was, but I could not stop being excited about my life in Hawai'i that was about to begin.

Classes

Classes began the next day promptly. Our season was about 4 hours of class from noon to evening. It is mandatory to speak English even during breaks, so we do not need to worry about improving our English skills even when only Japanese students are in the class. There are plenty of opportunities to speak English, so it is really up to you how you make the most of them. In regular classes, the main focus is on oral communication. Although the classes are basically classroom-based, there are also off-campus activities, such as pairing up with students from the University of Hawai'i to enjoy conversation, hula lessons, and trips to the aquarium and museum every Monday. At the end of the program, a graduation party was held at a hotel. I had worried that I would not be able to improve my English in three short weeks, but the increased opportunities to speak led to an improvement in my English, and I was able to spend a fulfilling time in the NICE program.



ホームステイ生活

経営学科 2年 宮北寿美

私たちのホストファミリー

私たちは三週間、Tamayo Family のお宅で私たち三人と一人の日本人留学生と過ごしました。Tamayo Family は父、母、娘の三人と犬が一匹いました。ホストファーザーは単身赴任中であつたため、合わせて六人で生活しました。ホストマザーが日本人であり、また長くハワイに滞在している日本人留学生がいることから、私たちはとても安心して過ごすことができました。

ホストファミリーとの日常

ホストシスターと私たちは初日から一緒に折り紙をして遊んだり一緒にアニメを見たりして過ごしました。また、日本人留学生と私たちで夜中にホラー映画を見るなどして過ごすこともありました。NICE プログラムの授業が午後だったため、放課後遊びに行くと帰宅時間が遅くなってしまい、なかなかホストファミリーやルームメイトと交流する時間がとれませんでした。しかし、私はみんなで過ごす時間が大好きだったので少しでも一緒にいたいと思い、予定がない日は早めに帰り、夜ご飯をみんなで食べるなどしました。

私たちの家のルール

ホームステイ先ではいくつかのルールが決められていました。シャワーは 23 時までに入るということ、洗濯は週に一回だということ、門限は 22 時だということなどです。食事に関しては朝食の時間は自由でしたが、夕食は日によって帰宅時間が違うため、一緒に食べるのか、残しておいてもらうのか、いらないのかを連絡するルールになっていました。ホストファミリーによってもルールは様々なようですが、私たちは生活していく中でホストマザーにわからないことがあれば聞いたり、要望があれば相談するようになりしてました。快適な



ホームステイ生活を送ることは留学生生活を充実させるためにも大切なことです。もし、不便だと感じることや困ったことがあれば、我慢をせずホストファミリーに相談してみることも重要です。

充実した生活

私が三週間楽しめたのは温かく迎えてくれた Tamayo Family とルームメイトと共に過ごせたからということが本当に大きいです。三週間は本当にあっという間でした。大好きなホストファミリーにいつかまた会いに行きたいです。



Homestay Life

Kotomi Miyakita

Our host family

We spent three weeks at the Tamayo Family's home, consisting of a father, mother, daughter, and a dog. There were three students from our group and one other Japanese student. The host father was working far away, so there were six of us. Since our host mother is Japanese and there is a Japanese exchange student who has been in Hawai'i for a long time, we felt very safe and comfortable.



Daily life with the host family

From the first day, the host sisters and I spent time together playing origami and watching anime. Since the NICE program classes were in the afternoon, we would go out after school and come home late, so it was hard for me to spend time with my host family and roommates. However, I loved spending time with my host family and roommates, so I wanted to be with them as much as possible. So on days when I did not have plans, I went home early and had dinner with them.



Rules in our home

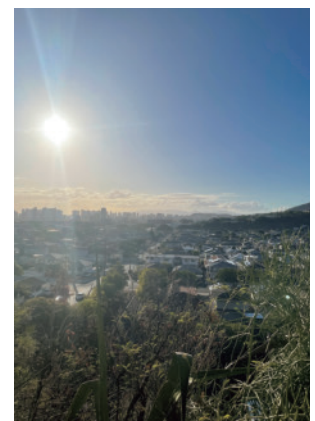
Our homestay family had a few rules. We had a shower before 11:00 p.m., laundry once a week, and a curfew of



10:00 p.m.. As for meals, we cooked breakfast by ourselves, but dinner was served at different times depending on the day, so we had to let our host families know whether we wanted to eat with them, to leave some of the meal for us, or not. The rules seemed to vary from host family to host family, but we asked our host mothers when there was something we did not understand or if we had any requests. A comfortable homestay life is important to make your study abroad experience fulfilling. If you have any inconvenience or trouble, it is important to ask your host family about it without holding back.

Fulfilling life

I could enjoy my three weeks in Hawai'i because of the warm welcome I received from the Tamayo Family and my roommates. The three weeks really flew by. I hope to revisit my favorite host family someday.



海外企業訪問レポート

経営学科3年 小浜揮

訪問先

今回私たちはJTBハワイに訪問しました。JTBハワイはハワイの中心地であるワイキキ周辺にオフィスを構える会社で、日本のJTBの支社です。訪問先ではハワイの観光客増加に伴う環境破壊の問題やSDGsの目標達成に向けたお話を聞くことができました。日本のJTB北海道では全く違う事を問題点に挙げており、同じJTBでも抱える問題は全く違う事には衝撃を受けました。

施設見学の学び

施設見学では会社の多様性について学ぶことができました。特に印象的だったのは雇う際に、宗教や結婚の有無を聞くことをタブーとしていることです。日本では結婚について聞かれることは当たり前になっており、それが雇用時の問題になっていることも多々あります。これは雇用機会を平等にする点において日本の企業に優れていると思いました。

プレゼンテーションを通しての学び

プレゼンテーションをするにあたって、私たちが学んだのは『伝える』この重要性です。プレゼン資料を作るにあたり、まずは日本語に対応する英語に置き換えていくのですが、置き換え時に対応する英語が難解な単語になってしまう場合が多くありました。そこで私たちは難読な語句を極力減らし、代わりに発音やスピード、そして重要語句の強調を意識した『伝える』練習を繰り返しました。当日は緊張によって話が飛んでしまう人もいましたが、重要なことを強調して練習したことが功を奏し伝えることができました。プレゼン後には現地のJTBの社員の方々に高評価を受けてもらえて嬉しかったです。成功と同時に私たちは自信を獲得できました。このプレゼンを通じた経験は私たちを一段階上に成長させてくれる活動だったと思います。最後にこのような機会を設けていただいたJTB様には感謝しています。ありがとうございました。



JTB Hawai'i report

Furuu Kohama

Destination

We visited JTB Hawai'i, a branch of JTB Japan, which has offices in the Waikiki area, the heart of Hawai'i. During our visit, we heard about the environmental destruction problems caused by the increasing number of tourists in Hawai'i and their efforts to achieve the goals of the SDGs. I was shocked to see that the problems faced by JTB Hokkaido in Japan are completely different from those faced by JTB Hokkaido in Japan, even though they are the same JTB.

Learning from Facility Tours

The tour of the facility gave me an insight into the company's diversity. Particularly striking was the taboo against asking about religion or marital status when hiring. Asking whether the candidate is married is common in Japan, which is often a troublesome issue when hiring. I thought this was superior to Japanese companies regarding equal employment opportunities.



Learning through Presentation

In giving our presentations, we learned the importance of communicating. In creating presentation materials, we first rewrote the Japanese and changed them into English corresponding to the Japanese, but in many cases, the corresponding English became difficult words when replaced. Therefore, we reduced the number of difficult-to-read words as much as possible and instead repeated the “communicating” exercises, focusing on pronunciation, speed, and emphasis on essential words and phrases. Some participants were so nervous on the day of the event that they forgot to be content, but they could convey the important points they had practiced and emphasized. After the presentation, we received compliments from local JTB employees. With this success, we gained confidence. I think the experience through this presentation was an activity that helped us grow to the next level. Finally, I would like to thank JTB for this opportunity. Thank you very much.



JTB ハワイへのプレゼンテーション準備

経営情報学科3年 小関みなみ

テーマについて

私たちは、JTB 北海道事業部と JTB ハワイというように、北海道とハワイで同じ企業を訪問させていただいたため、観光という1つのテーマから北海道とハワイの相違点を中心に事前学習を行いました。私たちは両者の環境問題と少数民族文化に着目し、北海道の観光に対して提案を行うという形でプレゼンテーションをすることにしました。

環境問題について

環境問題については、世界的に有名な観光地であるハワイへの観光客がコロナ禍によって激減したことで、自然環境が改善されたことに注目しました。さらに、ハワイでの観光の推進と自然環境の保護について考える中で、「地球上のすべての物があるべき状態にある」ことを指す、「ポノ」というハワイ語を知りました。私たちは、ハワイがポノの精神を持った「ポノ・トラベラー」の推進を目指していることを受け、この考え方を北海道の観光にも応用すべきだと考えました。

少数民族文化について

北海道にはハワイと同様に、アイヌ文化という少数民族文化があります。私たちは、アイヌ文化についての学びを深めるため、アイヌ文化の復興・創造・発展を目的としたナショナルセンターである、ウポポイに行くことにしました。そこでは、アイヌ民族の暮らしや文化、歴史、復興について学びました。しかし、ウポポイがアイヌ文化を正しく理解するための観光地としての役割が十分に果たしているのか、差別の歴史に関する説明が十分なのか、などという点において疑問を持ちました。このことは、観光を活用した、アイヌ文化を正しく伝える方法についてを改めて考え直す機会となりました。ハワイ

での観光者の在り方を表す「ポノ・トラベラー」を北海道に適用するため、私たちは「アイヌコロ・トラベラー」という言葉を使いました。「アイヌコロ」とは、アイヌ語で尊敬する、尊重する、という意味です。観光としての魅力や楽しみを失わずに、その地の文化や伝統に敬意を払うことの重要性を学生の目線から提案しました。

プレゼンテーションの作成を通じて

このプレゼンテーションの作成は、前期から夏休みにかけて行い、何度も自分達で考え直して学びを深めたことで、観光やハワイ、北海道についての知識を得ただけでなく、自分達や社会のこれからについて十分に考えることができました。9人で1つのプレゼンテーションを作り上げるのは大変でしたが、それぞれが役割を全うし、お互いに高め合えたことで、ハワイでの研修の前に大きく成長したり、仲を深めたりする良い機会となったと思います。



Preparation of presentation to JTB Hawai'i

Minami Ozeki

About the presentation theme

Since we visited the same companies in Hokkaido and Hawai'i, JTB Hokkaido Division and JTB Hawai'i, we focused our prior study on the differences between Hokkaido and Hawai'i under the theme of tourism. We decided to focus on the environmental issues and minority cultures of the two countries and made a presentation in the form of a proposal for tourism in Hokkaido.

Environmental issue

We noted that the natural environment had improved due to the decrease in tourism caused by the COVID-19 pandemic in Hawai'i, a world-class tourist destination. Furthermore, in thinking about promoting tourism in Hawai'i and protecting the natural environment, we learned the Hawai'ian word "pono," which means "everything on earth is as it should be." We thought that this concept should be applied to tourism in Hokkaido as Hawai'i is trying to promote the "pono traveler" who has the spirit of pono.

Minority culture

In Hokkaido, as in Hawai'i, there is a minority culture called Ainu culture. To learn more about Ainu culture, we decided to visit Upopoi, a national center for the revival, creation, and development of Ainu culture. We learned about the life, culture, history, and revival of the Ainu people there. However, we questioned whether Upopoi could fulfill its role as a tourist attraction for a proper understanding of Ainu culture and whether the explanations about the history of discrimination

were sufficient. These issues made us rethink how to spread Ainu culture through tourism properly. We used the word "Ainu-colo traveler" to apply the spirit of "pono traveler" to Hokkaido, describing how tourists should be in Hokkaido. "Ainu-colo" means respect and esteem in the Ainu language. We proposed the importance of respecting the local culture and traditions from students' perspectives without losing the charm and enjoyment of tourism.

Through the creation of a presentation

The presentation was made during the first semester and summer vacation, and we could gain knowledge about tourism, Hawai'i, and Hokkaido and think about the future of ourselves and society. It was much work for nine of us to make one presentation, but each of us did our part, and we were able to improve each other's skills, which gave us an excellent opportunity to grow and be close to each other.



観光について

経営情報学科2年 二階堂愛

満足のいく観光をするには

みなさん、語学研修とはいえどもハワイ観光も抜きかりなく楽しみたいですね。私を感じたことは、それを達成するには綿密な計画と毎日の体調管理が必要ということです。

私たちの授業スケジュールは平日の12:00-16:30で、例えば私の場合だと家の夕食が19:30だったため、それまでに帰宅することが推奨されていました。つまり、平日は観光できるような自由時間が多くありませんでした。ここで重要なのが、綿密な計画です。一分一秒も無駄にしたいくない私たちは、朝5時に起きてダイヤモンドヘッドに登ったり、朝活と称して朝食が有名なお店を巡ったり、放課後マクドナルドでお喋りしたり、限られた時間内で思う存分行きたい場所へ行きました。前日にバスの時間や移動距離を把握しつつ、メンバーの意見を持ち寄りながら行き先を決めておくことで、隙間時間を有効活用しました。

しかし、ほぼ毎日朝から晩まで予定を詰めている中で、もう少し寝かせてくれと思わない朝がなかったとい

えば嘘になります。ここで重要なのが、体調管理です。個人的には、3週間という短い期間なら体に鞭を打ってでも色々な所に行くべきだと感じます。後で思い返した時にそれらは間違いなく素敵な思い出になるし、行ってよかったなと思わせてくれるのです。しかし、それで体調を崩せば元も子もないので毎日の体調管理は大切です。早寝早起きを徹底して毎日十分な睡眠時間を確保することは、日中のパフォーマンスをあげるうえで重要でした。

おわりに

これらのことは当たり前のことのように聞こえますが、日本にいるときはそれほど意識できていませんでした。私は帰国後、1日の充実度を高める重要性を実感しています。ハワイ留学を思い返したときにやはり観光の思い出が鮮明に蘇ってくることが多いので、ここの解像度をいかに上げるかというところで計画や体調管理が大前提で大事になってくると思っています。



Tourism

Ai Nikaido

How to have a satisfying sightseeing tour

Everyone wants to enjoy sightseeing in Hawai'i even though it is a language training program. To enjoy sightseeing during this busy program, I needed to plan carefully and take care of my physical condition daily.

Our class schedule was 12:00-16:30 on weekdays; in my case, for example, dinner at home was at 19:30, so it was recommended to be home by then. In other words, there was not a lot of free time available for sightseeing on weekdays. The key here is careful planning. Not wanting to waste a single minute or second, we woke up at 5:00 a.m. to climb Diamond Head, toured restaurants famous for their breakfast as a morning activity, chatted at McDonald's after school, and went as many places as we wanted within the limited time available. We made the most of our time by deciding where to go the day before, knowing the bus times and distances to be covered, and sharing our opinions.

With a packed schedule from morning to night almost every day, I would be lying if I said there was no

morning when I wished to sleep a little longer. The key here is to take care of yourself. Personally, I felt that for a short period of three weeks, you should go to many places even if you have to whip your body into shape. Looking back on them later would be full of beautiful memories and make you feel glad you went. However, taking care of yourself every day is essential because if you get sick, it will be a loss of life. Ensuring that I went to bed early and woke up early, and got enough sleep every day was necessary for my performance during the day.

Conclusion

These things sound obvious, but I was not so conscious of them when I was in Japan. Since returning to Japan, I have realized how important it is to make the most of each day. When I reflect on my time in Hawai'i, I still often have vivid memories of sightseeing, so I believe planning and good physical condition are important.



ハワイの文化と生活

経営情報学科3年 鈴木蘭

ハワイのフラ

フラはハワイの伝統的な踊りです。文字を持たなかったハワイの人々が、伝統や歴史を後世に伝えるために、踊りの動き一つ一つに意味を込めて踊り自体が物語となって受け継がれてきました。私たちがハワイ大学のniceプログラムでフラの講習を受けた時は、フラの歴史を学び、講師の歌やひょうたんから作られるイブという打楽器や、竹の棒に縦に切れ目の入ったパイリという楽器の音色に合わせながらフラを踊りました。またビショップ博物館でもフラの歴史や道具を学ぶことが出来ました。

ハワイのアロハシャツ

アロハシャツはカラフルな絵柄が特徴的な開襟シャツのことです。ハワイでは男性の正装として認められています。ハワイ最大のショッピングモールであるアラモアナセンターからコンビニであるABCストアまで、様々なお店でアロハシャツを見かけました。私たち学生はもちろん、近藤先生や浦野先生もアロハシャツを買っていました。また店員がアロハシャツを着用していることも多いため日本との違いを感じました。



ハワイの伝統料理

最も代表的なハワイの伝統料理はポイです。ポイとはタロイモを蒸して練りつぶしたものであり、古代ハワイアンの主食です。またタロイモの葉とティーリーフの葉で豚肉や魚を包み蒸し焼きにしたラウラウや、豚肉を地中かまどに敷いた石とバナナの葉で蒸し焼きにしたカルアピッグもハワイの伝統料理です。ハワイのショッピングモールであるアラモアナセンターで食べた時、特にポイは日本では絶対に食べられない味だと感じたので興味のある人は是非挑戦してみてください。もちろんハワイ大学の学食でも伝統料理を楽しむことが出来ます。

ハワイの生活あれこれ

ハワイは平均気温が30度なため最初は凄く暑いと感じましたが、カラッとした暑さで快適だったためすぐに慣れました。個人的には髪がすぐ乾いて嬉しかったです。

ハワイにはバスの到着時間が逐一確認できるアプリがあります。なぜならバスが時間通りに来ることの方が珍しいからです。バスの中では席を譲ってくれることが多く、ハワイは優しい人が本当に多いと感じました。



Hawaiian Culture and Life

Ran Suzuki

Hula of Hawai'i

Hula is a traditional Hawaiian dance. The Hawaiian people, who did not have a written language, passed down their traditions and history to future generations, putting meaning into each motion of the dance move and passing on the dance itself as a story. When we took a hula class at the University of Hawai'i's NICE program, we learned about the history of the hula, listened to the instructor sing, and danced the hula to the sounds of the ipu, a percussion instrument made from a gourd, and pu'ili, a bamboo stick with a vertical slit in the middle. We also learned about the history of the hula and its tools at the Bishop Museum.

Hawaiian Aloha Shirts

The Aloha shirt is an open-collared shirt with a colorful pattern. It is recognized as formal wear for men in Hawai'i. We saw aloha shirts at various stores, from Ala Moana Center, the largest shopping mall in Hawai'i, to ABC Store, a convenience store. Not only us students but also Mr. Kondo and Mr. Urano bought Aloha shirts. I also felt the difference between Hawai'i and Japan because many store clerks wore aloha shirts.



Traditional Hawaiian Cuisine

The most typical traditional Hawaiian cuisine is poi. Poi is steamed and mashed taro potato, a staple food of the ancient Hawaiians. Another traditional Hawaiian cuisine is Laulau, steamed pork and fish wrapped in taro leaves and ti leaves, and kalua pig, steamed over banana leaves and stones in an underground oven. When I ate at the Ala Moana Center, a shopping mall in Hawai'i, I felt that poi is a unique taste you can never have in Japan, so if you are interested, please give it a try. Of course, you can also enjoy traditional food at the University of Hawai'i cafeteria.

Life in Hawai'i this and that

The average temperature in Hawai'i is 30 degrees Celsius, which made me feel very hot at first, but I soon got used to it because it was so dry and comfortable. Personally, I was happy that my hair dried quickly.

There is an app in Hawai'i that allows you to check the actual arrival time of the buses. This app is important because it is rare for a bus to arrive on schedule. I felt that people in Hawai'i are generally very kind since they are often willing to give up their seats on the bus.



総括

経営学科2年 大川陽聖

目的意識を持つ

私は当初、中途半端な心持ちでこの海外総合実習プログラムへの参加を決めてしまっていました。ハワイで英語に浸る生活を経験し、さらに経営学部の学生らしく企業研究もできるのなら、語学を学ぶだけの留学よりも面白そうだなという安直な考えを持っていました。しかし、事前学習の段階で、自分はこのプログラムを通して一体何をしたいのか、どういう学びを得たいのかという明確な目的が定まっていないことに気がつき、私は自分の中で2つの目的を設定しました。それは、「組織内でリーダーシップを発揮する経験を積む」と、「日本と異なる生活・文化の体験から自身の視野を広げる」ことです。目的を決めてからは、自分の頭で考えて動くことが増え、学びが加速したと思います。とりあえずやってみようという意欲ももちろん大事ですが、「目的意識を持つこと」が必要だということを実感しました。

積極性を持つ

ハワイを訪れる前の私には、果たして英語で自分の言いたいことが相手に正しく伝わるだろうかという不安がありました。しかし、そのような不安を持つ必要はありませんでした。私はハワイでの生活を経て、相手と話す際は流暢な話し方や文法に沿った言葉選びよりも、まずは、「相手に自分の考えを伝えようとする積極性」の方が重要であるということを実経験から学びました。それは日本に居ても同じで、気持ちのこもったメッセージは相手の関心を引くと思います。一方で、日本と異なると思ったのは、事実よりも、「個人の考え」を聞かれる場面が多いということです。だからこそ、わからないことがあったら質問したり、何か思うことがあったら率直に伝えたりするといった積極性は大切です。なにより、英語を使って国外の友達をつくれたことや、プレゼンをしたときに人に伝わっている感覚というのは、日本の普段の生活ではなかなか味わえない達成感があり、素晴らしい経験となりました。もし海外総合実習に参加したいが英語が苦手だという学生がいたら、不安に負けずに飛び込んでほしいです。



Summary

Yosei Okawa

Have a sense of purpose

At first, I had a half-hearted decision to participate in the Overseas Comprehensive Internship Program. I had thought it would be more interesting than studying abroad just learning a language because I thought I could experience life in Hawai'i in English and research companies as a student of the School of Business Administration. However, during the pre-study phase, I realized I did not have a clear purpose for what I wanted to do or learn through this program, so I set two goals for myself. It is "Gain experience in exercising leadership within an organization" and "Broaden my perspective through experiencing lifestyle and culture differences from Japan." Once I decided on my purpose, I was able to think and act on my own, and I think my learning accelerated. Of course, being willing to try anything is important, but I realized that having a sense of purpose is necessary.



Have a proactiveness

Before visiting Hawai'i, I was concerned about whether I would be able to correctly communicate what I wanted to say in English. However, I did not have to worry about that. Through my life in Hawai'i, I learned from experience that when speaking with others, it is more important to be proactive in conveying one's thoughts to others than to speak fluently or choose grammar-compliant words. It is the same in Japan; I believe a message with many feelings will attract the other person's attention. On the other hand, what I thought was different from Japan was that I was often asked about my "personal thoughts" rather than facts. Therefore, it is crucial to be proactive, asking questions if you do not understand something or frankly expressing your thoughts if you have something in mind. Above all, being able to make friends outside of Japan using English and communicate with others when giving a presentation gave me a sense of accomplishment that is difficult to experience in everyday life in Japan, and it was a wonderful experience. If any students are interested in this program but are not good at English, I hope they overcome their anxiety and take the challenge of *Kaigai Sogo Jisshu* (The Overseas Comprehensive Training Program of BA).



Part Two. 北海学園大学経営学部の英語

北海経営 English (Hokkai Business English : HBE)

北海学園大学経営学部では、海外総合実習をはじめ、学生のみなさんが英語に触れ、英語を使う機会を様々な形で提供しています。このプログラム全体を北海経営 English (HBE) という総称でまとめ、入学時から卒業までを通して学生のみなさんの英語コミュニケーション能力の養成をサポートします。

コロナ禍や高速インターネット網 (5G) の普及、さらに AI などの新たな技術革新が続く現在、HBE の英語教育も日々進歩しています。HBE では、英語コミュニケーションの基本である「読む」「書く」「聞く」「話す」という 4 技能をバランスよく育成し、さらにビジネス・シーンでは不可欠な「問題解決能力」と、多様な価

値観の中で自由なコミュニケーションを可能にする「多様性社会受容能力」を養うプログラムを通して、グローバルなビジネス・リーダーに相応しいコミュニケーション能力を育みます。

英語の基本スキルを磨く 1 年次・2 年次科目 (総合実践英語)

1・2 年生を対象とした「総合実践英語」科目は、英語の 4 技能 (読む、書く、聞く、話す力) をまんべんなく身につけることを目標に開講しています。1 年次科目のリーディング&ライティング・ストラテジー A (第 1 学期開講) とコミュニケーション・ストラテジー A (第



英語でディスカッションをする様子 (リーディング&ライティング・ストラテジー A)

総合実践英語の科目構成

1 年次	リーディング&ライティング・ストラテジー A コミュニケーション・ストラテジー A	第 1 学期 (週 2 回) 第 2 学期 (週 2 回)
2 年次	リーディング・ストラテジー B I、B II ライティング・ストラテジー B I、B II コミュニケーション・ストラテジー B I、B II	第 1 学期、第 2 学期 第 1 学期、第 2 学期 第 1 学期、第 2 学期

2学期開講)は全員が履修し、週に2回英語の授業を受けることで、社会に出たときに必要な最低限の英語力をつけることを目指します。

1年次科目は履修必修となっていますが、プレースメント・テストの結果に応じたクラス分けを行うことで、これまで英語が得意でなかった学生も努力さえすれば英語力を向上できるクラスや、すでに英語をたくさん勉強してきた学生がさらに上のレベルを目指すクラスを提供しています。

2年生向けに提供されている科目はすべて選択科目となり、ひとりひとりの学生が自分の興味関心や必要性に

応じて好きなクラスを組み合わせる履修することが可能です。

英語の専門スキルを養う3年次科目 (ビジネス英語)

「総合実践英語」科目を履修して英語力を培った学生は、3年次以降に「ビジネス英語」科目を履修することで、卒業後にビジネス・パーソンとして使える英語を身につけることを目指します。経営学部生として自分のキャリアを考え、そこで必要となる英語スキルを身につけるために自由に科目を選択することができます。



自分たちで考案したオリジナル製品のポスター発表をする様子 (コミュニケーション・ストラテジー B)

ビジネス英語の科目構成

3年次

ビジネス・ライティング	第1学期
ビジネス・コミュニケーション	第1学期
ディスカッション・スキル	第1学期
ビジネス・プレゼンテーション	第2学期
ビジネス・リーディング	第2学期
ビジネス・ディスカッション	第2学期

英語演習 (内藤ゼミ)

内藤ゼミでは、グローバルビジネス人材の育成という大きな目標を掲げ、様々な活動を行っています。コロナ禍で過去3年間、海外渡航が難しかったため、海外に行くことはかなり限定されていましたが、オンラインを駆使しながら、北海道に居ながらグローバルな視点を身に付ける努力をしました。ゼミ活動は、各学年の全体活動と、ゼミ生の個人活動に大きく分けることができます。順に紹介したいと思います。

【4年生・全体活動】

2年次から行ってきたゼミ活動の総括として、ジビエプロジェクトを政策提言論文『カムイ政策—エゾシカの循環で、次世代に繋がる豊かな北海道の文化を創造する』をまとめ上げ、2022年12月10日(土)に明治大学駿河台キャンパスで開催された政策フォーラムでの口頭



北海道シュヴルレイコ浦臼工場

発表は、地方創生部門で分科会賞を見事受賞しました。地道なフィールドワークを重ね、工場、役場、大学研究室、道庁を訪れて現場で起きていることを捉えたことが評価されました。

4年生は、思考力を磨くために、オルテガの『大衆の反逆』、旧約聖書の『民数記』、『2030年ジャック・アタリの未来予測』を読破し、高貴なるものの義務とは何か、秩序とは何か、利他心とは何かを学びました。

note

キーワードや作者名で検索 🔍 ログイン 会員登録

NEWSHARE

📄 445本

北海道の若者が、興味のある分野の最新記事を要約し、自分の考えを共有しています!

フォローする

運営しているクリエイター

記事 月別 ハッシュタグ

「米国税関による2021年度 「船荷証券の電子化のための模倣品等の取締り報告」... 法整備に向けた議論の現状... 「東京から移住で子1人に100万円 政府、23年度から...」

NEWSHARE のトップページ

その他に、個々人の興味ある時事ネタをまとめて自分の考えを述べるサイト NEWSHARE (https://note.com/taiga_fat/) も運営し、投稿総計は445本にもなりました。

【4年生・個人活動】

4年生の個人活動は、2022年度は卒業論文が主たる活動でした。3名のゼミ生が卒業論文を提出しましたが、そのうち、寶嶋響子さんが2年生から地道に調査研究を行ってきたロシア中古車貿易の論文「ロシア極東中古車市場における日本車の優位性」は、日本港湾経済学会の

学会誌（査読付）に掲載されました。伝統ある学会の査読審査を経て採択されたのは快挙です。その背後には、ロシア語で書かれた論文や記事を読み、ロシア語の中古車サイトからデータを取り込み、中古車貿易をする港で聞き取り調査を行いました。



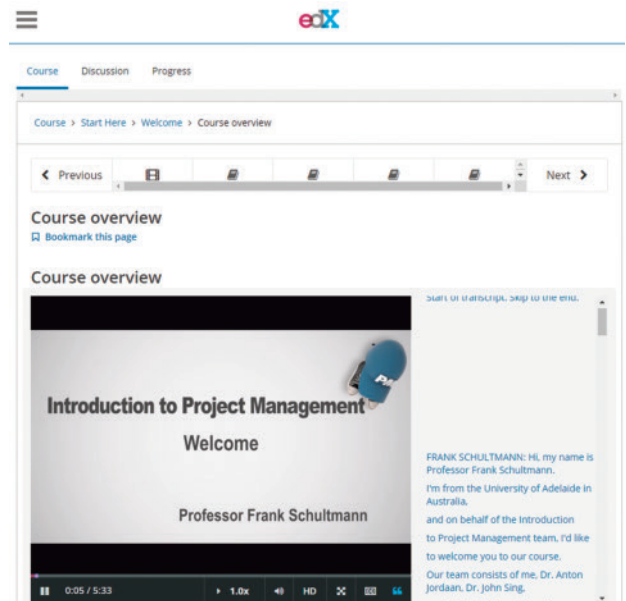
キルギス・中古部品市場クダイベルゲンにて

卒業旅行では、キルギスとウズベキスタンに行き、中古車貿易の現地調査も実施するなど、意欲的に取り組みを続けています。

【2年生・全体活動】

2年生は、白取春彦の『頭がよくなる思考術』を読むことからスタートし、続いて、edXという無料のオンライン講座で、オーストラリアのアデレード大学が提供する「Introduction to Project Management」というコースを受講し、プロジェクトをどのように進めるべきかについて、英語で勉強をしました。プロジェクトを推進する際に、準備段階、計画段階、実行段階、最終段階の4つのステップで、何をすべきか、ステークホルダーに対してどのように働きかけるかなどを学び、課外活動につなげるのが狙いです。

このプロジェクトマネジメントの実践としては、『北海道版グローバル業界地図（仮称）』の制作に向けてプロジェクトを立ち上げました。ゼミ生の中には高校時代に



グローバルコースに所属していた人がいますが、北海道でどのようなグローバル事業が展開されているかを全く知らないという状況でした。磨いた語学力がどうやって社会で活かされるのを知りたい、という思いを出発点に、北海道の企業や事業所がどのようなグローバル活動をしているかを記したガイドブックの作成を目指しています。

【2年生・個人活動】

2年生の個人活動では、読書が中心でしたが、それに加えて、北海学園の学生が運営するお悩み相談室『HGU SOS』の運用、札幌商工会議所が主催する『学生と企業によるSNS協働プロジェクト#SNSノススメ』への参加、『ジョブヨク（職欲の未来）』の札幌でのイベントの運営に関わり、ゼミの学びを社会との接点において応用させる取り組みをしました。

英語演習（浦野ゼミ）

隔年開講の浦野ゼミは、(1) 英語力の向上を目指し、(2) 卒業後の人生に英語を結びつけることを考え、(3) 自律的に行動することを重視しています。自律性を大切にしているので、ゼミでの活動内容は基本的にゼミ生が自分たちで考え、話し合って決定します。毎週のゼミでの活動の他、勉強会やイベント等教室外で行う自主的な活動、長期休業中の海外研修などをこれまで行ってきました。

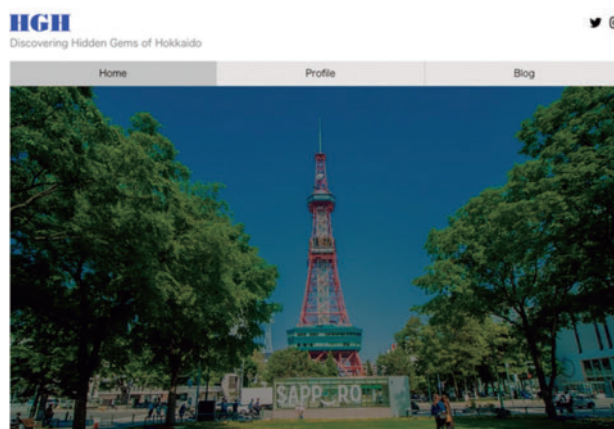
ゼミ生有志とゼミ教員浦野とで台湾の海外研修旅行を行った1期生（2017年度～2019年度）に引き続き、2期生（2019年度～2021年度）も2020年2月と3月にかけて台湾とマレーシアへの研修旅行を実施予定でしたが、コロナ禍により直前での中止となりました。3期生（2021年度～）はゼミ発足時からコロナ禍での活動を余儀なくされたため、海外渡航はおろか対面での交流も大幅に制限される中、どのような活動ができるか試行錯誤を繰り返しました。

ウェブや SNS を活用した情報発信

対面での異文化交流が難しくなった2020年度以降、日本語と英語の両方を使い、ウェブや SNS を活用した情報発信を目標にプロジェクトを企画しました。

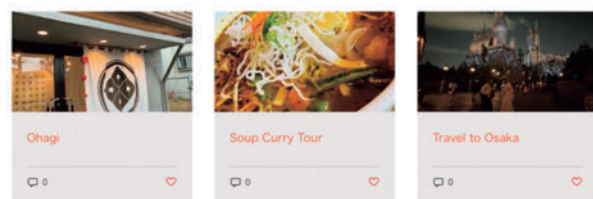
2020年度には2期生のプロジェクトとして北海道の魅力を大学生目線で紹介するブログ“Discovering Hidden Gems of Hokkaido”を立ち上げ、2021年度にかけてゼミ生が実際に訪れた道内の観光名所や飲食店を二言語で紹介する記事を50件以上公開しました。

2022年度には3期生が SNS を活用することを提案し、札幌市内の飲食店を中心に飲食店の魅力を写真で紹介する Instagram のアカウント E-Talk Hokkaido を開設しました。

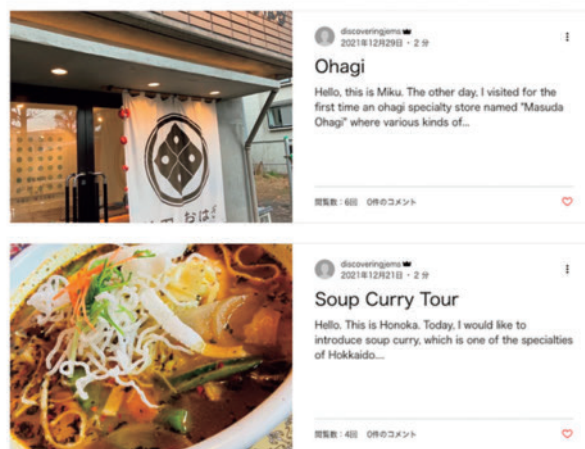


Latest Posts

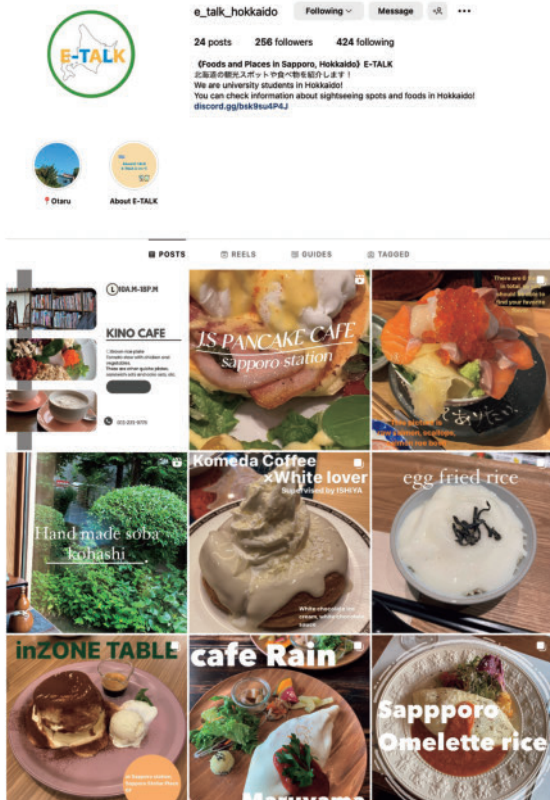
最新記事



全ての記事 self-introduction sightseeing Ramen Café Activity Stay Home



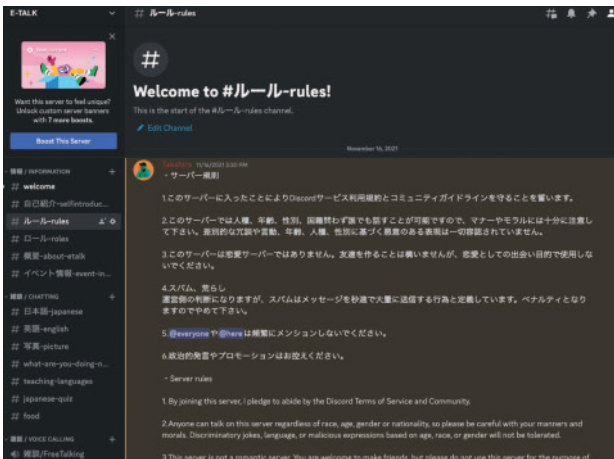
Discovering Hidden Gems of Hokkaido
<https://discoveringgems.wixsite.com/gems>



E-Talk Hokkaido
https://www.instagram.com/e_talk_hokkaido/

オンラインでの異文化交流

2022年度には、情報発信だけでなく双方向の異文化交流の実現を目標に、オンラインコミュニケーションツール Discord を利用した交流スペース E-Talk を開設し、日本語と英語を学ぶ若者が世界中から 100 人近く集まりました。



Discord 上の E-Talk の画面

Discord 上の E-Talk では、日本語と英語を互いに教えたり、ボイスチャット（音声での会話）で交流を行ったりという活動が行われました。

飲食店のメニュー英語化プロジェクト

コロナ禍も落ち着きを見せ始め、海外からの旅行者も北海道に戻るようになった 2022 年度後半には、ゼミ生の発案で、市内にあるスープカレー店のメニュー表記を英語化するお手伝いをしました。日本語のメニューに書かれた内容を日本語や日本の食生活に馴染みのない旅行者に理解してもらうためにはどのような表現が適切かを検討しながら英語メニューの提案を行い、採用されました。



3 期生が提案した英語メニューが実際に店内に掲示されている様子

個人での海外渡航

2 年以上実現しなかった海外渡航ですが、2022 年度に入って個人レベルでは再開されました。2022 年度海外総合実習にはゼミ生 1 名（3 期生）が参加し、2023 年度には 3 期生のうち 2 名が休学し、ワーキングホリデービザを利用してカナダとオーストラリアに滞在しています。

英語教員紹介

北海学園大学経営学部の英語教育は、主に4名の専任教員によって運営されています。

石井晴子教授

総合実践英語・ビジネス英語担当
2022年度海外総合実習事前・事後指導担当



私は「異文化間コミュニケーション」科目や、異文化間コミュニケーションのツールとしての英語教育を行っています。日本では「グローバル人材育成」といえば、すぐにビジネス人材、英語力と結びつけて考えますが、私の研究分野の「グローバル教育」では、「グローバルな人」とは論理力、建設的な批判力を持ち、「日本（自分の国）でも世界でも人として信頼される人」とであると定義されます。そういう人を育てるのが私の教育理念です。また、私はShip for World Youthという内閣府が企画運営するグローバルリーダー育成事業に関わっています。これは世界12ヶ国の若者と、日本を含め世界の課題についてディスカッションし、船で1ヶ月以上共同生活をするものです。このプログラムには北海学園大学の学生も選考され、乗船していますが、日本人の英語コミュニケーション力は、世界に対する知的好奇心を持ち、論理力、建設的な批判力があると向上することがわかりました。また、異文化衝突の場面でも誠意をもってコミュニケーションし、互いを理解しようとする経験から文化を超えて信頼が生まれます。真の「グローバルな人」は日常から生まれるものであると実感しています。

松根マーク教授

総合実践英語担当
2013-16年度海外総合実習事前・事後指導担当
2017年度海外総合実習担当



Hello! I am a third-generation Japanese-Canadian and have taught English in Japan for over thirty-seven years. Over that period, there have been many changes in the TEFL (Teaching English as a Foreign Language), such as incorporating computer literacy and information technology in the language classroom. In many academic fields, including TEFL, computer-assisted instruction is integral to learning. The visionary curriculum in our Faculty of Business Administration is an excellent example of this. We are not only imparting specialized knowledge and theory but also helping students acquire the practical tools and skills to use them in the real world.

Our students are also given many chances to expand their global perspectives and experiences with native and non-native English-speaking countries. As a Canadian, I am very pleased that our university has professor and student exchange programs with the highly respected Canadian university, the University of Lethbridge in Alberta. During your time as a university student, I hope you will take the opportunity to study abroad at the U. of L. and participate in hosting Canadian exchange students at our school.

I have been privileged to be involved in the University of Lethbridge exchanges for the past 31 years and our Faculty of Business Administration's Kaigai Sogo Jishu program for the past 10 years. Working with students at various Sogo Jissen Eigo program levels, I have fostered their skills and confidence to utilize their English communication proficiency in global environments

successfully. These included future vocations, international volunteer activities, further academic pursuits abroad, international travel and friendship. It is gratifying to watch some individual graduates go on to use their English skills working in Germany's largest pharmaceutical company: Boehringer Ingelheim, the Hokkaido Ministry of Economy, Trade and Industry, the Japan National Tax Agency and the World Bank. Having played a small role in stimulating their growth in these areas is rewarding.

内藤永教授

総合実践英語・ビジネス英語担当
2016、2018、2020、2022年度英語演習I担当
2013、2014、2018-2020年度海外総合実習担当



2011年より総合実践英語を担当し、様々な海外プロジェクトに携わってきました。専門は、English for Specific Purposes (ESP)で、社会の現場で取り交わされるコミュニケーションのパターンを研究し、到達目標を定め、教育をするという分野です。最近の研究では、TOEICを実施している一般財団法人国際ビジネス・コミュニケーションとの共同研究で、グローバル企業がビジネスミーティングをするときの状況を調査しています。また、教育としては、グローバルビジネス人材の育成に力を入れており、北海道の企業のグローバル化の道を模索し、学生たちに海外ビジネスの経験を積ませる仕組みづくりを行っています。学生を海外商談会に引率していますが、それはESPの研究成果の一つです。海外商談会で使われる交渉の英語にも特定のパターンがあり、そのパターンに沿った英語の準備をすることで、学生も商品の説明や簡単な通訳ができるようになります。

浦野研教授

総合実践英語・ビジネス英語担当
2017、2019、2021、2023年度英語演習I担当
2015、2016、2022年度海外総合実習担当



2003年の経営学部創設時に北海学園大学に着任し、主に総合実践英語とビジネス英語科目を担当しています。専門の研究分野は第二言語習得 (Second Language Acquisition) で、主におとなと子どもの持つ言語習得能力の違いを研究対象としています。経営学部生に英語を教えていることもあって、内藤先生と同じくESP研究にも携わっており、学習者のニーズに合った英語教育/学習方法についても研究していて、特にタスク・ベースの言語教育 (Task-based Language Teaching) の研究と実践に力を入れています。

学生時代に6年ほどハワイで暮らした縁もあり、2022年度以降の海外総合実習を母校のハワイ大学で実施することになりました。私がハワイに住んでいたのは電子メールがやっと普及しはじめた時期で、オンラインでの異文化交流が自由に行えるようになった今日は隔世の感があります。コロナ禍も落ち着きを見せ始め、今後はまた誰もが気軽に海外に行くことができるようになると思います。積極的に飛び出せるみなさんはもちろん、一歩を踏み出す勇気の出ないみなさんも応援するのが北海学園大学の経営学部です。北海道にも観光客をはじめ多くの外国人が再び訪れるようになりました。仕事でも日常生活でも、コミュニケーションの手段として英語を使うことで広がる可能性を、学生時代にぜひ体験してほしいと願っています。



引率教員を囲んだ羽田空港出発時の集合写真
上：浦野研教授 右：近藤弘毅教授





北海学園大学 経営学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40

地下鉄東豊線「学園前」駅3番出口直結（札幌駅より6分）

TEL.(011)841-1161(代)

経営学部ホームページ <https://ba.hgu.jp>